



大工の価値を高めたい

(株)平成建設 社長 秋元久雄 あきもと ひさお

「大工がない建設会社? どうすんの?」

今だから共感が得られるのですが、私が平成元年に創業した頃は違いました。

「秋元さん、新人を一人前の大工に育てるには最低でも十年はかかる。とてもじゃないけど、時間とコストがかかりすぎる。だからみんな外注しているんだから、人を育てながら会社を経営するなんて、無理に決まっている。やめたほうがいいよ」

そう言って心配してくださる方がたくさんいらっしゃいました。

建設業界では、営業や設計、施工管理以外の工程をすべてアウトソーシングしています。何も知らない新人を大工として会社で雇ってゼロから教え込むより、すでに技術を身につけた外部の職人を雇うほうが時間的に早いし、コストがかかりません。戦後の高度成長期から現在に至るまで、またスーパーゼネコンから地方の工務店まで、みんな同じビジネスモデル

です。

その結果、どうなったのでしょうか。

若い大工の育つ場所がなくなり、一方では大工の高齢化が進みました。

バブル崩壊後、わが国は約二十年にわたる低迷期に入り、その間多くの建設会社が倒産し、下請けの大工へのコスト削減要求は熾烈を極めました。そして十年ほど前からは、現場崩壊の危機が叫ばれるようになったのです。

わが国が世界に誇る木造建築をつくるのは、大工です。本来の大工の仕事は頭も体も使う仕事で、作業員に務まる仕事ではありません。設計も現場監督も、営業も弟子の育成もできるはずです。

幸い創業以来、このような私の考え方に賛同してくれる若者たちが平成建設という舞台に集まり、大工同士はもちろん、社内の営業、設計、現場監督たちと切磋琢磨しながらお客様のご要望に応え、お客様に支えられながらここまで成長することができました。

「お客様に大工と一緒に建築を楽しんでほしい」、そんなことを最近は考えています。